

# 第14回「日本語大賞」

テーマ 私が<sup>だいじ</sup>大事にしている言葉

小学生の部 文部科学大臣賞 受賞作品

## 『「大好き」の魔法をかけて』

山口県  
敬愛小学校  
小学四年 安田 彩乃

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

「大好き」のま法をかけて

敬愛小学校 小学四年

安田 彩乃（やすだ・あやの）

私には大切なものがたくさんある。おたん生日に買ってもらったシロクマのぬいぐるみ。いつも遊んでくれる、おとなりのお姉ちゃん。食いしんぼうの父が買って来てくれる、新発売のおやつ。ケンカをした後の、兄との仲直り。私はいつもこれらの「大切」にふれるたび、心の中でじゅ文を唱える。それは、「大好きだよ。」の言葉だ。この言葉を使うと、私の気分はそれまでの何倍もうんと明るくなる。このま法のような言葉の力に、一番最初に気づかせてくれたのは、母だった。

母は今、入院している。でも、私はさびしくない。強がらなくていいんだよ、と父は心配してくれたけれど、大丈夫。理由の一つは、毎日母とテレビ電話ができるからだ。目の前にいなくても、画面を通して母の温かさを感じることができる。帰ってきたらいっぱいだっこしてね、なんて、いつもならはずかしくて言えないことも伝えることができる。でも、最大の理由は、私たちにはひみつのおまじないがあるからだ。それは、心が温かくなる言葉、「大好き」のやり取りだ。

母とはテレビ電話でたくさん話をする。その日学校であった楽しい話だけでなく、父のうっかり話や、兄のがんばりも話している。母がうれしそうに話を聞いてくれるから、私はますます楽しくなる。私は学校にいる時から、今日は何を話そうかな、とワクワクしている。話の種を探すことが楽しみで、母が入院する前よりも学校が好きになったくらいだ。

でも、母との楽しい時間はあつという間に過ぎてしまう。私は電話が終わるのがさびしくてたまらない。また明日もお話できると分かっているのに、いつも泣きそうになってしまう。そんな時、母はいつもこう言ってくれる。

「彩ちゃんの言葉は、ママを元気にしてくれる、ま法の言葉だよ。彩ちゃん、大好き。」

この言葉を聞くと、私はたちまち元気になる。私は、母のま法使いなんだ。私はうれしくなって、母に必ずこう伝えている。

「私も、ママが大好き。今からママに、大好きのま法をかけるよ。明日の夜まで有効だから、さびしくないよ。」

母はいつもとびきりの笑顔で聞いてくれる。

この「大好き」の言葉は、私と母の笑顔をつなぐ大切なじゅ文だ。もしかしたら私は、母だけじゃなく、自分にもま法をかけているのかもしれない。会いたい気持ちを笑顔に変える、不思議なま法。私は「大好き」を伝えるのがもっともっと好きになった。

私はこれからも、「大好き」の言葉を大切なものに伝えていきたい。いつもいっしょだよ。ありがとう。これからもよろしくね。私の「大好き」には、いろんな気持ちがつまっている。私は今日も、「大好き」のま法をかけて元気にすごしている。